
金魚牢

西くん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金魚牢

【Nコード】

N53460

【作者名】

西くん

【あらすじ】

『何か』に期待をかける男。
その『期待』とは……？

私は楽しみでしうがなかつた。

ここは、とあるビルの三階である。

この階に居るのは私だけではない、TV局やニュースキャスター、警察、その他にも大勢の人間がいる。

私は楽しみでしうがない。

いや私だけではない、きつと日本全国の人間がこの日を待っていた事だらう。

私は、今朝からこのビルに居た。

朝早く起きたが、この日のことを思つと眠気がどこかへ吹つ飛んでいった。

朝食を取ることも忘れ、このビルにやつてきた。

人が大勢いる中、私は人込みの中を人を押しのけて進んでいった。

「おい」「押すな」「ふざけんじゃねえつ」

そんな罵声も耳に入らず、私はエレベーターの一番前にまで来た。

「君、下がりなさい」などと国家の犬共がキャンキャンと喚いたが、私が名刺を見せるとすぐに黙つた。

謝る事も知らない愚図が。

しかし、そんな事はどうでも良い。
そろそろだ。

私が何年何十年と待つた『もの』が、来るのだ。

しかしその時、

「あ、あなたは『あの方』ですか!？」

「今日に向けての一言を!」

・・・・・・邪魔だ。

私が犬に見せた名刺を見たのだらう、マスコミのマイクが私の口元に差し出された。

・・・・・・本当に、屑だな。

私の楽しみを奪いやがって。

私はポケットに手を入れ銃を取り出し、撃った。
発砲音が廊下に鳴り響く。

「私の気を害すな、ゴミ共。なんなら皆殺してもいいんだが」
「・・・・・・・・」

一瞬の沈黙の後、マイクが私の顔から遠ざかっていった。
・・・・・・・・これで落ち着く。

エレベーターが上がってくる音が聞こえてきた。
いよいよだ。

私は上を向いた。

エレベーターの階がどんどん上がってくる。

1・・・・・・・・2・・・・・・・・

チン、と鈴のような音が鳴った。

エレベーターの扉が開く。

・・・・・・・・ああ。

カメラのフラッシュが一斉に焚かれた。

そこには、金魚の入った金魚鉢が置いてあった。

「やった！やったぞ！！」

私は感動のあまり涙が出た。

後ろから聞こえる拍手は恐らく野次馬だろう。

金魚は涙を流す私を見て満足したのか、タイミングよろしく扉が閉まった。

（後書き）

何故この小説が『ホラー』に分類されてるのか、

それは、私がこの世界で最も怖いのが『意味不』だからであり、

『殺人を楽しむ人間』を見て、誰もが『何故人殺しが楽しいのだ？』

『狂気だ』と思うように、

私はその『狂気』をこのような形に曲げてみたというわけである。

……とりあえず、ここまで読んでいただいてありがとうございます！

（ちなみに『金魚牢』とは札幌にある居酒屋の名前）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5346o/>

金魚牢

2010年10月27日02時53分発行